

研修会参加報告

2016年度 女子審判トレセン 参加報告

ビデオ解説や実践的なプログラムは実際に審判をする時にとっても参考になります。

インストラクターの方との距離も近く疑問点なども質問しやすい雰囲気、いろいろと教えてもらうことができました。

審判をする機会はそんなに多くはないのですが、ひとつひとつできることを増やしていくことで選手から信頼される審判を目指したいと思います。

【4級】 岡田 縁



【無資格】 樋口 愛

今回参加させて頂き、改めて競技規則をしっかりと知らないといけないと感じました。ずっとプレーヤーをしていたので感覚的にファウルやオフサイドはわかっていましたが、感覚に頼るのではなくしっかりとした根拠が説明出来ないと信頼を持ってもらえる審判員にはなれないと感じました。

またプラクティカルの中でしたが、初めて主審をして位置取りやシグナルの出し方、瞬時に判断しなければならぬ難しさを実感しました。今まで主審をされている方への尊敬の念も生まれました。

体力的にも不安があるので、まずは基礎的な所から一つ一つやっていかないといけないと痛感させられた1日でした。

またこのような機会があれば参加して行きたいと思っています。ありがとうございました。

講習会受けさせていただいて、ありがとうございました。

いろんな方とお話をして、聞いて、自分にとって知らないこともたくさんあったし、実践することで改めてレベルの差というのを感じることができました。

ですが、そのおかげでもっと上を目指したいと。誰にも負けたくない。という気持ちが出来ました。

これから部活の都合もありますが、審判活動に関わっていきたいです。よろしくお願いします。

【4級】 河野 星楽(ユース)





【4級】 藤井 千晃

今回初めて参加しました。

新規とか更新の大人数のものと違って、身になるお話ばかりだったな、と思いました。

これまでは3~4時間の講習時間、ただ座って聞いて、知っている知識の中で判定して、講義終了といった具合でしたが、実際に審判活動をするようになって、初めて実戦を交えた講義がこんなに必要なものとは思いませんでした。

今後も多くの試合を経験されている方々から、直接指導していただける場に積極的に参加して、自分の関わる全てで、よりよい試合にしていけるよう頑張りたいと思います。

藤さんの研修会の報告の中で、

「見る気がなければ何も見えない」

「聞く気がなければ何も聞こえない」

という言葉が、私も印象に残りました。

日々の生活の中でも、これを意識すれば自分自身変わる気がします。

e ラーニングで4級の更新を3回やりました。その中で、競技規則を見たり、実際の映像でオフサイドの判定をすることで、テレビで放送される試合でも、審判の動きに目が行くようになりました。

審判活動をするまでは、気に留めない存在だったと思います。しかし、試合を成立させているのは、プレーヤーであり、審判であり、会場であり・・・いろんなことを意識して、プレーなり審判活動なりを続けていきたいと思います。

午後から参加させて貰いました。プラクティカルでは、ペナルティエリア付近での“ファウル”か“ファウルではない”のかを極めるのが難しかったが、他の仲間のレフェリーが行っているのを見て、今の状況を自分たちならどう判断するのかを、話し合える良い場となった。

実践試合では、“目をきる”努力をして、次の動きに素早く対応しようと心がけたが、やはり中々ボールから目を離せなかったので、次の動きに一步遅れてしまった。次回はもっと意識したいと思う。ただ、その後争点へ走って近づくスピードは褒めて頂いたので、ぜひ続けていきたいと思う。

【3級】 笹部 優



いろんな方と接することができ楽しかったです。

教える難しさはいつも痛感します。

自分が本当にわかっていないと教えられないし、いい加減なことはいえない…と思いました。

観て学ぶという有意義な時間にもなりました。

ありがとうございました。

【2級】 竹内 菜由香





大勢の審判スペシャリストの方々もいらしていただき、暖かい雰囲気と受講生一人に一人以上の手厚いサポートにビックリしました。

グラウンドでの実戦審判練習では、すぐにその場で説明や指摘があり、いつも疑問に思っている所もすぐにお訊ねでき丁寧に教えていただけて嬉しかったです。

さらに録画での反省会もリプレーを繰り返し見ての説明など至れり尽くせりの講習会で、とてもよかったです。次回はチームメートも誘いたいです。

【4級】 田中 靖子

今回の審判トレセンは「判定とゲームコントロール（信頼を得るために）」というテーマで行われ、「ゲームコントロールとは」という内容のプレゼンテーションを担当しました。

プレゼンテーションの準備を進める中で、今までの審判活動の中で学んだこと、活動の中で実感したことを整理することができました。「競技規則の正しい理解」がゲームコントロールのベースとなり、競技規則の正しい理解に基づいた正しい判定をすることによって選手の信頼が生まれてくると思います。正しい判定をするためには、主審、副審、第4の審判員の相互のコミュニケーションを密にして協力することが大切であり、さらに、主審の決定した判定を選手にはっきりと伝えるシグナルをすることでスムーズなゲームコントロールができるかとまとめました。

また、中本さんや藤さんの報告を受けて、コミュニケーションの大切さや同じ目標に向かっていく仲間の大切さを学びました。自分の審判活動を振り返ってみると、今回、自分なりにまとめたことに関して課題ばかりですが、自分がしなければならないことが明確になったように感じます。

午後からの実践トレーニングでは、実際の動きの中での具体的な課題を見つけることができました。ポジショニングに関しては、争点への距離の取り方の不安定さについて指摘していただきました。近すぎず、遠すぎない適切な距離を保ちながら、事象を正確にとらえ、判断していくことが課題であると分かりました。

次に、他の審判員との協力については、オフサイドの見落としやファウルサポートに対してうまく対応できなかったことについて指摘されました。対角線式審判法の見直し、試合中のポジションの取り方を考えることが必要であると感じました。

副審や第4番とのコミュニケーションについても、こまめにアイコンタクトをとって確認しあうこと、試合中に余裕を持って、目配りをすることを確認しました。今回、ビデオ撮影していただき、自分の動きを視覚的に確認することができ、反省すべき点がより明確になったように感じます。今回のトレセンでは、様々な立場の審判員が集まり、共にトレーニングすることで、日ごろの不安や疑問をぶつけ合うことができ、とても有意義な時間を過ごすことができたように感じます。ありがとうございました。



【2級】 高島 裕希子



最初のレクチャーでレフェリーに必要な要素は何かというのをいろいろ考え、みんなで出し合い、レフェリーって本当にたくさんの要素が必要なんだなと思いました。

ルールをしっかりと理解することは前提として、円滑に試合を進めるにはそれだけではダメで冷静さや判断力、強いメンタルや体力など様々な要素を持ち合わせた審判である必要があるのだと改めて感じました。

また高島さんの「ゲームコントロールとは何か」というプレゼンテーションでは選手が安全にプレーできる、能力を発揮するためにプレーに集中できる環境を作る、のも審判の役割なのだと知りました。審判とはただファウルを判定したり、どちらのボールかを示すだけではなく「試合を円滑に進める」という大切な役割を担っており、そのためには主審だけでなく副審や4審も含めて4人で協力することが大事なのだと学びました。



中本さんの高校総体の報告ではたくさん的高校生が全国大会出場、優勝を目指して頑張ってきて、その中で審判をするというのは大変なことで、でも大変だからこそその中で審判を務めることができれば、充実感や達成感など様々なことを感じることができるのだろうなと思いました。私もいつかこの中で笛を吹きたいなと思った瞬間でした。

お昼からのプラクティカルでは、オフサイドの判定やファウルの見極め、また高校生のダッシュについていく大変さなど難しいこともたくさんありましたが、練習を積んで少しずつでも向上していきたいなと思いました。また練習で主審として少し笛を吹いたのですが、笛を吹くことがこんなにも緊張して勇気があることなのだと初めて知りました。コートの中の練習で緊張していたら試合で吹けるのかと不安になりました。選手との距離も近すぎて選手の邪魔にはなってはいけなし、かといって離れていたらファウルが見えないし、審判のポジショニングも本当に難しいんだなと感じました。走りながら、とっさに判断するということはとても大変で凄いことなんだと改めて感じることができました。

今回の講習会に参加して、これから私もの崎さんや他の審判の方々みたいに審判としてもサッカーと関わっていきなりたいなと思いました。

そのためには競技規則をしっかりと頭に入れてまず4級取得を目指したいと思います。

土日も部活がありなかなか参加することは難しいですが頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。

【無資格】 吉永 真紀

この度女子審判トレセンに参加させていただき、自分の審判活動はたくさんの方々を支えられて成り立っているということ改めて実感しました。

また、今回のテーマは「判定とゲームコントロール(信頼を得る為に)」でしたが、映像を見て判定をしたときには自信のないものがほとんどで、判定の精度をさらに上げていかなければいけないと痛感しました。フェスタのダイヤモンドランキングでは、3級を取ったばかりの頃に比べると思い浮かぶ言葉も優先順位も違うものになっており、ここ数年で少しずつではありますが意識が変わってきたことを感じることができました。

昼食後のトレーニングマッチでは、判定ばかりが気になってしまいましたが、反省会で動き出しの遅さを指摘していただき、自分の動きを振り返る良い機会になりました。正しい判定をするために、見たいものが見える所に動き、選手やスタッフから信頼してもらえることができる審判員になりたいと思います。

たくさんのお話を聞いた中でも、主審と副審の協力という所が最も印象に残っています。自分が副審に入っているときには主審にリードして頂いているところばかりですが、自分が主審をしているときにはそこまで心配りができていないことがたくさんあります。一つずつチャレンジしていき、副審と良い連携が取れるようになりたいと思いました。

最後に、内容の濃い貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。



【2級】 中本 早紀

この度のトレセンでは、初めてお会いする方も多い中、大変和やかな雰囲気の中で臨むことができました。

前回参加した際にも「審判をするにあたっての自分の優先順位」について考える機会がありましたが、私は口では「競技規則の理解」が根本にあるといいながらもその意識が足りていないと思います。

まずは学校のサッカー部の仲間たちにもルールを正しく説明できるくらいのしっかりした理解をしていき、そこから深めていけたらいいと思います。

また、審判中に臨機応変に対応できるよう自分の中に叩き込むよう努力します。

ブラクティカルトレーニングでは2つに分かれて指導をいただきました。すこし短めの時間でしたが、上手でスピードのある選手のプレーを間近で見ると行動し、様々な事象をみることができてよかったです。TMでも短い時間のなか集中して臨めました。

全く関わることのなかった方もいたので、もうすこし全員の交流の場があればいいなと思いました。

この度はありがとうございました。



【3級】 宮脇 新奈(ユース)

今回は JFA の方の講習からたくさんの方の事を学ばせていただきました。自分の必要なことをもう一度再確認しました。

自分が目標としていることをするために何をしなければならないのか、自分でも意識しているつもりでもなかなか実感が湧いていなかったため、そこをもう一度考えられたのはよかったと思います。

またレフェリングでは 10 分という短い間でしたが自分のしたいことをできたかなと思います。

周りを見て予測することを意識して出来ました。インストラクターの方にも褒めていただいて良かったです。最後に自信を持つことが出来ました！

準備をしないと笛を吹くことができないので、しっかりと準備して臨みたいと思います。



【3級】藤 真悠子(ユース)

この度は、審判講習会に参加させていただき、ありがとうございました。

今回の講習会では、細かいところも丁寧に教えていただいて、すごく勉強になりましたが、審判をするには、もっともっと勉強しないといけないなと思いました。

今まで、副審のシグナルがあいまいでよくわかりませんでしたが、教えていただいたお蔭でしっかり理解し、自信を持って副審が出来るようになりました。

オフサイドラインなど、まだわからないことはたくさんありますが、いろいろな人に聞いて、勉強して解決していこうと思います。

今回で教えてもらったことを、忘れずに、これからも審判のことを勉強し続けて、いつか正式な試合で審判をしたり、部活の試合でも主審が出来るように、積極的に練習試合の主審や副審をして、経験を積んで頑張りたいと思います。

ありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。



【4級】畑中 あずさ (U-15)

今回、兵庫県の2級～4級（+ 今後資格取得予定者）、10代～50代と幅広いカテゴリーの審判員に前向きに参加していただきました。

JFAから派遣していただいた講師からは「審判員として大切なこと」をいろいろな視点で考える機会を与えていただき、また全国大会に参加した育成女子審判員からの報告でも学んできたことを伝えていただき、それぞれがいろいろなことを感じることができた研修会になりました。

プラクティカルトレーニングや実践練習でも自分たちの今できることを精一杯出していただき、できなかったことを再確認できる場になり、それぞれが次への課題をもって前向きに進める研修会になりました。

また今回の研修参加者の中から3人の育成審判員への希望者もあり、仲間が増えたことで兵庫県の女子審判員の今後にも楽しみになりました。



【1級】的崎 睦子(女子部長)